

BUSINESS REPORT

第20期 中間株主通信

2016年4月1日 ▶ 2016年9月30日



A zest for
Inno **ation**
contributing
to society



株式会社バイ・テクノロジー
(証券コード:7717)

トップメッセージ

株主の皆様におかれましては、日頃より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

当社グループは1997年の創業以来、独自の経営と技術でイノベーティブな製造装置・検査装置をフラットパネルディスプレイ (FPD) 製造に携わるお客様にタイムリーにお届けし、FPDの進化と発展に寄与してまいりました。本年6月には、「FPD事業の収益基盤の深耕・拡大」と、「新事業立上に挑戦と礎の構築」からなる中期経営計画を発表し、実現に向けグループを挙げて事業活動に邁進しております。それでは、当中間期の概要についてご報告いたします。

当第2四半期連結累計期間における世界経済について、米国経済は、好調な輸出および設備投資の持ち直しを背景に景気回復が続きました。中国経済は、公的投資および不動産投資等が下支えし底堅く推移しています。欧州経済は、先行きに不透明さが残るものの、好調なドイツが牽引するかたちで底堅さが確認されました。わが国経済は、企業の生産活動に持ち直しの動きが見られるものの、個人消費の伸び悩み等が足を引っ張り、力強さを欠く状態が継続されました。

当社グループの主要な市場であるフラットパネルディスプレイ (FPD) の製造装置市場においては、主に海外で有機ELディスプレイ (OLED) および大型液晶パネルの工場新設等にかかる大規模な設備投資が継続されました。

このような環境の中、当社グループは中国、日本、台湾、韓国といった国内外のパネルメーカーに拡販活動を行ってまいりました。受注金額は、主に中国および日本向けの検査関連装置、中国向けの露光装置並びに関連消耗部品およびメンテナンス等の受注により、341億7千9百万円 (前年同期は310億9千9百万円) となりました。なお、受注残高は580億4千7百万円 (前年同期は312億9千万円) となりました。

当第2四半期連結累計期間の当社グループの連結業績につきましては、第1四半期連結会計期間において、オー・エイチ・ティー株式会社および同社子会社4社を連結子会社化したこと等に伴い、売上高は188億4百万円 (前年同期比49.3%増)、営業利益は24億3千9百万円 (前年同期比301.3%増)、経常利益は21億8百万円 (前年同期比290.7%増)、親会社株主に帰属する四半期純利益は10億8千7百万円 (前年同期比237.4%増) となりました。

なお、2017年3月期の中間期配当金につきましては配当方針に基づき、1株当たり40.00円の配当を実施いたします。

今後も株主の皆様のご期待に沿えますよう、大いなる志と溢れる情熱で、世界最高のイノベーションを創造しFPDの進化と発展を通じて社会に貢献していく所存です。株主の皆様におかれましては、今後とも一層のご理解とご支援を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

2016年12月



代表取締役社長
杉本 重人

特集：中期経営計画

【背景】

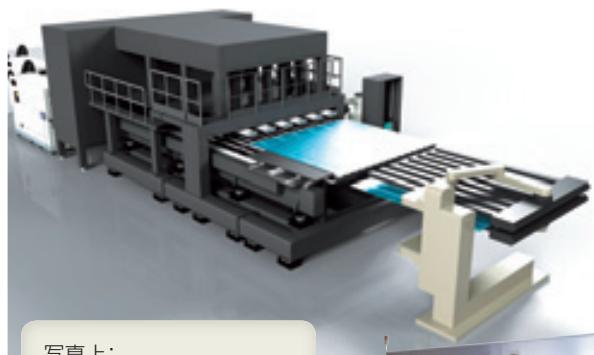
当社グループは、フラットパネルディスプレイ (FPD) の進化と普及に寄与する独自のイノベティブなソリューションで事業を発展させてまいりました。

近年は、独自のソリューションに社外から様々なリソースが加わりグループ全体の競争力強化と事業の拡大に成功しております。独自のソリューションとしては、大画面ディスプレイ用低温ポリシリコンTFTを低コストで実現する局所レーザーアニール装置や、高精細中小型OLED実現を可能とするFHM (Fine Hybrid Mask) が挙げられます。また、2015年6月1日にカラーフィルター露光装置で高いシェアと競争力を誇る株式会社VNシステムズが、2016年4月1日にFPDの電気検査でトップクラスのシェアを誇るオー・エイチ・ティー株式会社がグループに加わりました。さらに、独自技術と社外リソースから生まれるシナジーで新市場参入に向けた活動を活発化させています。

一方、事業環境は、新興国でのFPD製造設備へ継続的な投資や有機EL関連の設備投資により、2018年度まで堅調に推移すると考えられています (IHS調査データ、2016年10月20日時点)。

以上のような背景から株主そしてステークホルダーの皆様のご期待にお応えすべく、本年6月24日に中期経営計画を公表いたしました。

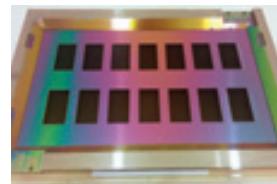
当社グループの製品イメージ



写真上：
ブイ・テクノロジー製
局所レーザーアニール装置
写真下：
オー・エイチ・ティー製
FPD電気検査装置



写真上：
ブイ・テクノロジー製
OLED用Fine Hybrid Mask (FHM)
写真下：
VNシステムズ製
カラーフィルター露光装置



【概要】

経営理念

大いなる志と溢れる情熱で世界最高のイノベーションを創造し社会に貢献します。

基本方針

第1の柱 FPD事業の収益基盤を深耕・拡大する

- 1 技術差別化によるダントツシェアの確立
- 2 新製品で新しい市場を開拓(OLED)
- 3 アフターサービス事業の深耕・拡大
- 4 新設調達本部によるSCM確立

第2の柱 新事業立上に挑戦し礎を構築する

- 5 社内シナジーによる新たな事業展開
FPD事業周辺への展開
- 6 環境分野への展開
バイオ・メディカル分野への展開

グローバル
人材戦略

資本政策
株主還元

新市場開拓
(M&A)

新市場開拓
(新技術展開)

迅速な決断・持続的成長に資するコーポレート・ガバナンス体制整備

FPDソリューション事業を基軸に絶え間ない変革と挑戦で新しい価値と未来を創造

中期経営計画 2つの柱、骨子について

本中期経営計画は、経営理念「大いなる志と溢れる情熱で世界最高のイノベーションを創造し社会に貢献します。」のもと、2つの柱、「1. FPD事業の収益基盤を深耕・拡大する」と「2. 新事業立上に挑戦し、礎を構築する」で構成されます。

2つの柱を支えるべく、コーポレート・ガバナンス体制の整備、グローバルでの人材戦略・人材活用、事業の安定的な成長と株主還元に資する資本政策の推進、M&Aや新技術展開を踏まえた新市場の調査・開拓に力を入れています。

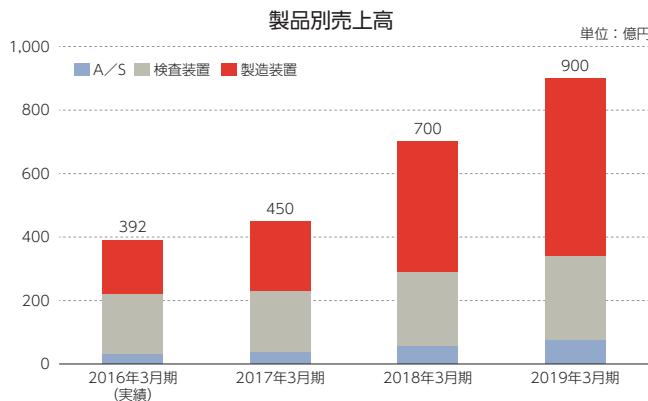
中期経営計画の2つの柱について 1 ～ 6 の解説

- 1 従来製品の差別化、高付加価値化、および価格競争力強化を目指します。
- 2 成長が期待される有機ELディスプレイ(OLED)分野での展開を強化します。
- 3 装置販売後の所謂「ポストセールス」にフォーカスし収益拡大を目指します。
- 4 調達本部を設置、グループ全体で情報共有などによりコスト削減を目指します。
- 5 既存リソース周辺分野(半導体分野など)での事業構築を目指します。
- 6 既存リソースもしくは外部リソースを活用し、環境分野、バイオ、メディカル分野での事業構築を目指します。

【目標とする指標】

目標とする指標を、売上高と営業利益とし（以下カッコ内は営業利益）、2017年3月期は450億円（40億円）、2018年3月期は700億円（90億円）、2019年3月期は900億円（140億円）といたしました。技術開発等による製品の差別化・新製品の投入等により増収増益と持続的な成長を目指しています。製品別では製造装置が、用途別ではOLED（バックプレーン含む）向け製品の販売が伸長する見通しです。

2016年3月期から2019年3月期までの FPD事業の製品別販売見通し



コーポレート・ガバナンス基本方針

昨今注目を集めるコーポレート・ガバナンスについて、4つの基本方針を定め、企業経営におけるコンプライアンスおよび透明性の確保と、経営基盤の整備につとめています。

4つの基本方針

- 1 迅速・果敢な意思決定の体制
- 2 法令、定款、社内規則の遵守
- 3 適時、適切な情報開示と透明性の確保
- 4 取締役会等の責務を果たす体制

株主還元・資本政策に関わる基本方針

将来の事業拡大や経営基盤強化のために必要な内部留保の充実を図りつつ、配当の安定性・継続性を考慮の上、経営成績に応じた利益還元を行うこととしております。尚、目標とする配当性向は、実績等を考慮し、2017年3月期より従来の「10%以上」から「20%以上」に変更いたしました。また、配当額は、事業環境等を勘案しつつ決定いたします。

※見通しに関する注意事項

本誌面に記載されている当社の計画、戦略、見通しおよびその他の歴史的事実でないものは、将来に関する見通しであり、これらは現在入手可能な期待、見積、予想に基づいています。これらの期待、見積、予想は、経済情勢の変化、競争環境の変化、係争中および将来の訴訟の結果など多くの潜在的リスク、不確実な要素、過程の影響を受けますので、実際の業績は見通しから大きく異なる可能性があります。従って、これら将来予想に関する記述に全面的に依拠することは差し控えて頂きますようお願いいたします。また、当社は新しい情報、将来の出来事などにに基づきこれらの将来予測を更新する義務を負うものではありません。

売上高 (百万円)



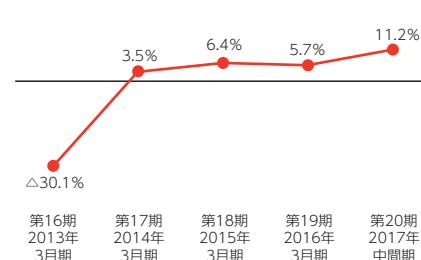
総資本回転率 (回)



経常利益/親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益 (百万円)



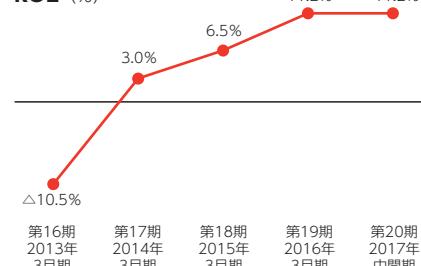
経常利益率 (%)



1株当たり純利益/1株当たり純資産 (円)



ROE (%)



(注) 1株当たりの情報については過去に遡って株式分割等に伴う調整計算を行っております。

● 2017年3月期(第20期)の業績見通し

	売上高 (百万円)	営業利益 (百万円)	経常利益 (百万円)	当期純利益*1 (百万円)	1株当たり当期純利益
業績予想	45,000	4,000	3,800	1,900	円 銭 383.74
(ご参考) 前期実績	39,153	2,578	2,235	989	209.46

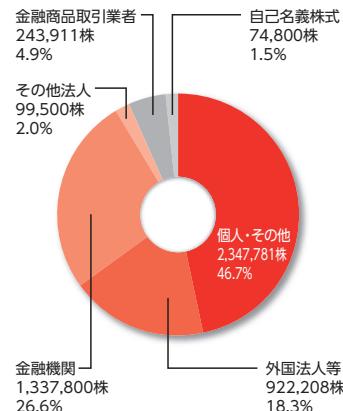
フラットパネルディスプレイ (FPD) 市場は、引き続き新興国でのパネルの設備投資並びに有機ELパネルに関する大型案件が複数見込まれております。今期の連結業績見通しにつきましては、売上高45,000百万円(前年同期比14.9%増)、営業利益4,000百万円(前年同期比55.2%増)、経常利益3,800百万円(前年同期比70.0%増)、親会社株主に帰属する当期純利益1,900百万円(前年同期比92.0%増)を見込んでおります。

*業績見通しについては、現時点で入手可能な情報から得られた判断に基づいております。予想にはさまざまな不確定要素が内在されており、実際の業績は種々の要素により業績予想とは異なる場合があることをご承知おきください。

※1 親会社株主に帰属する当期純利益

株式の状況 (2016年9月30日現在)

- 発行可能株式総数 17,590,300株
- 発行済株式総数 5,026,000株
- 株主数 6,106名
- 株式所有者別分布



Stock Information

大株主 (上位10名)

株主名	持株数	持株比率
杉本重人	587,300 株	11.7%
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (信託口)	551,500 株	11.0%
日本マスタートラスト信託銀行株式会社 (信託口)	210,500 株	4.2%
BNY GCM CLIENT ACCOUNT JPRD AC ISG (FE-AC)	129,903 株	2.6%
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (信託口9)	123,000 株	2.4%
CHASE MANHATTAN BANK GTS CLIENTS ACCOUNT ESCROW	91,752 株	1.8%
JPMCB: CREDIT SUISSE SECURITIES EUROPE-JPY 1007760	84,296 株	1.7%
日本証券金融株式会社	75,500 株	1.5%
CBNY OBERWEIS INTERNATIONAL OPPORTUNITIES FUND	74,100 株	1.5%
CBNY-OBERWEIS INTERNATIONAL OPPORTUNITIES INSTITUTIONAL FUND	58,700 株	1.2%

当社は自己株式74,800株を保有しておりますが、上記から除いております。

株主メモ

- 事業年度 4月1日～翌年3月31日
- 定時株主総会 毎年6月に開催
- 配当金受領株主確定日
・ 期末配当金 3月31日
・ 中間配当金 9月30日
- 株主名簿管理人 三菱UFJ信託銀行株式会社
- 特別口座の口座管理機関
・ 同連絡先 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
〒137-8081 東京都江東区東砂7丁目10番11号
TEL：0120-232-711 (通話料無料)
・ 同取次所 三菱UFJ信託銀行株式会社 全国各支店
- 上場証券取引所 東京証券取引所 (証券コード 7717)
- 公告の方法 電子公告とします。但しやむを得ない事由により電子公告をすることができない場合は日本経済新聞に掲載します。公告掲載の当社ホームページアドレス <http://www.vtec.co.jp>

(ご注意)

- 株券電子化に伴い、株主様の住所変更その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関 (証券会社等) で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合わせください。株主名簿管理人 (三菱UFJ信託銀行) ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 特別口座に登録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関 (三菱UFJ信託銀行) にお問合わせください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にてもお取次ぎいたします。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

UD FONT



会社の概要 (2016年9月30日現在) Company Profile



社名：株式会社ブイ・テクノロジー
設立：1997年10月16日
本社所在地：横浜市保土ヶ谷区神戸町134 YBPイーストタワー9F
TEL：045-338-1980 FAX：045-338-1781

役員

代表取締役社長	杉本重人
専務取締役	梶山康一
常務取締役	米澤良
常務取締役	勝原隆
取締役	天日和仁
取締役	城戸淳二

常勤監査役	和田正
監査役	大倉修和
監査役	吾田啓一郎
監査役	住田勲勇

- 取締役城戸淳二は社外取締役であります。
- 監査役大倉修和および吾田啓一郎は、社外監査役であります。

拠点一覧

